

研 究 主 題	ゲームの特性に触れながら、投げる力を育てるための指導の研究 —第*学年のボール運動のベースボール型における学習過程の工夫を通して—
------------	--

1 単元名 ボール運動（ベースボール型）

2 目 標

- ボール運動（ベースボール型）の楽しさや喜びに触れることができるよう、進んで取り組むとともに、ルールを守り助け合って運動をしようとしたり、運動する場や用具の安全に気を配ろうとしたりすることができるようにする。（運動への関心・意欲・態度）
- ルールを工夫したり、チームの特徴にあった作戦を立てたりすることができるようにする。（運動についての思考・判断）
- ベースボール型について、簡易化されたゲームで攻防をするためのボール操作やボールを持たないときの動きを身に付けることができるようにする。（運動の技能）

3 指導に当たって（男子*名 女子*名 計*名）

平成*年度の*学年の児童の体力テストの結果を見ると、全体では県平均を上回っている。しかしボールスローにおいては、男子*.*m、女子*.*mと平均値、もしくは平均値以下となっている。測定時には、測定範囲30°にボールが入らない児童や2回の距離が大きく異なる児童が多く見られた。児童の多くは、どうすればボールを遠くに投げられるかなどの投動作についての知識や技能を知らない。

そこで本単元のボール運動（ベースボール型）の中で投げるといった日常でほとんど行われぬ動作について特に取り上げ、児童の投力の向上を目指し、授業を実践する必要があると考えた。また、ティーボールを取りあげることで児童の打つ技能の負担を軽減しつつ、投げる、捕る、打つ、走るといった4技能を身に付けるためのドリルやタスクゲームを通して、チームで学び合っていくことで投げる力を育てることができると考えた。オリエンテーションでは自分のボールスローの記録を取り上げたり、スピードガン計測をしたりして、投げる力についての意識を高めるようにする。ドリルゲームは、単元中継続的に行い、記録を蓄積することで体力の高まりを感じさせ、強く遠くに投げられる喜びを味わわせる。そしてベースボール型のゲームを楽しむため必要不可欠な、基本的な4技能を身に付けつつ、特に投げる力が高まっていくことを児童に実感できるようにしたい。

4 単元の評価規準（下線は十分に満足できる状況）

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
おおむね満足できる状況	① 集団対集団で競い合う楽しさや喜びに触れることができるよう、 <u>進んで取り組もう</u> としている。 ② ルールやマナーを守り、 <u>友達と助け合っ</u> て練習やゲームをしようとしている。 ③ 用具の準備や片付けで、 <u>分担された役割を</u> 果たそうとしている。 ④ 運動する場や用具の安全を保持することに気を配ろうとしている。	① ゲームの行い方を知るとともに、簡易化されたゲームを楽しむための <u>ルールを考</u> えている。 ② チームの特徴に応じた攻め方を知るとともに、自分のチームの <u>特徴に合っ</u> た作戦を立てている。 ③ チームの課題を <u>解決</u> したり、 <u>作戦を成功</u> させたりする <u>ための練習</u> を選んでいる。	① バットで打ったり、打球方向に移動して捕球したり、オーバーハンドで投げたりすることができる。 ② 正しくボールを握り、投げる方向に対して体を平行にして <u>大きく腕</u> を振って投げることができる。 ③ 簡易化されたゲームで、ボールを打ち返す攻撃や <u>隊形をと</u> った守備をするための動きができる。

5 指導と評価計画（8時間扱い）

学習のねらい・活動			評価計画		
			関	思	技
はじめ	1	<p>オリエンテーション</p> <p>○ 運動の特性や学習のねらい，計画，内容を理解する。</p> <p>1 自分の身体状況を知る。 2 運動の特性や学習のねらいを知る。 3 体力要素の説明 3 学習の仕方（ドリルゲーム・タスクゲーム）について確認する。 ・学習カードの使い方 ・学習ルールの確認 ・ドリルゲームのやり方 4 グループの編成 5 本時の学習を振り返り，自分とグループの次時のめあてを考える。</p>	①	①	
なか	2	ねらい①	①		①
	3 4	<p>○ 個人的技能を身に付け，ゲームを楽しもう。</p> <p>1 整列・あいさつ・健康観察をする。 2 本時の学習のねらいを確認する。 3 ドリルゲームを行う。 4 チーム練習を行う。 5 整理運動をする。 6 本時の学習を振り返り，次時のめあてを考える。</p>	②	②	②
	5	ねらい②	①		②
	6 7	<p>○ 作戦を考えてゲームを楽しもう。</p> <p>1 整列・あいさつ・健康観察をする。 2 本時の学習のねらいを確認する。 3 ドリルゲームを行う。 4 チーム練習を行う。 5 タスクゲームを行う。 6 整理運動をする。 7 本時の学習を振り返り，次時のめあてを考える。</p>	② ③ ④	③	③
まとめ	8	<p>1 整列・あいさつ・健康観察をする。 2 本時の学習のねらいを確認する。 3 チーム練習を行う。 4 まとめのゲームを行う。（大会，リーグ戦など） 5 整理運動をする。 6 本時の学習を振り返り，次時のめあてを考える。</p>	①	② ④	⑤

6 本時の学習（6時間目）

(1) 本時のねらい

- 作戦を考えて打ったり，投げたり捕ったりすることができる。

(運動の技能)

(2) 準備・資料

- 学習カード・ティーボール一式・テニスボール・グローブ・ストラックアウト

(3) 展開

時間	学習活動・内容（形態）	指導上の留意点と支援（○評価）
はじめ 5分	1 集合・整列・あいさつ健康観察をする。 2 本時のねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">打とう！投げよう！ベースボール</div> 3 準備運動をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・チームごとに集合するようにして、チームの仲間意識を高めた状態で授業を始める。 ・特に肘・肩については意識して行うように本時の運動内容と関連させて助言する。
なか 3分 5分	4 ドリルゲームをする。 ・キャッチボール（2人組） ・アメリカンキャッチボール ホームからボールを転がし、捕った人は1塁へ、1塁からホームへ送球。 ・連続壁あてゲーム（教師が壁役となる） 壁にボールを送球、跳ね返ってきたゴロを捕球、送球をグループで繰り返す。 ・ストラックアウトゲーム 時間内に9枚の的をグループで順番に投げて当てる。男子10m 女子8m 5 タスクゲームをする ・バッティング（打つ） ・打ったボールをキャッチする。（捕る） ・キャッチボールタスクゲームのルール ・攻撃 打者（ティーボールを打つ）打者一巡で攻守アウトコールまでに折り返してきた塁（カラーコーン）に応じて得点とする。 ・守備 捕球したら、アウトサークルに3人集まってコールする。 ・得点 カラーコーンまでの距離 7m（1）、9m（2）、12m（3） ※本塁到達時に、次打者がタンバリンを鳴らし、アウト、セーフを判定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各ドリルゲームとも制限時間内で行い、記録を蓄積し、自分たちの記録の変化に気付きやすくする。 ・体が開いて投げられていない児童には、ケンステップを使って、足の位置を固定して取り組ませるようにする。 ・みんなでつないでゲームでは、人によって中継する距離が変わってもよいことを伝え、チームで話し合っ練習が取り組めるようにする。 ・連続壁当てゲームとアメリカンキャッチボールでは、壁や人の後ろにそらした時に取りに行く時間が無駄にならないように予備のボールを置いておく。但し予備ボールの数は限りがあるようにして、正確に投げることも、児童のめあてになるようにする。 ・ケンステップを使い、下半身の動きを意識して投げるように助言する。 ・コントロールを気にしすぎるとフォームが小さくなるので、力いっぱい投げるように助言する。 <p>○作戦を考えてバットで打ったり、ボールを投げたり捕ったりすることができる。 （ワークシート・観察）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バットに確実に当てることができるように、打つポイントや立つ位置を助言する。 ・打者によって守備位置を移動できることを伝え、守備位置について話し合いが活発なるように促す。 ・強く打つことに意識が強くなりすぎている時は打つ方向を工夫する方法を助言する。
まとめ 5分	6 整理運動をする。 7 本時の学習を振り返り、次時の学習について見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・使った部位を特に意識させ、グループごとに整理運動をさせる。 ・次時の活動を予告し、意欲を高めるようにする。